

令和3年度 実務経験のある教員等による授業科目一覧および当該科目担当教員実務経験一覧 鍼灸学科

氏名	科目区分	必修選択の別	科目名	授業形式	設定学年	設定時期	時間数	単位数	内容	経歴		役職	業務内容・専門分野等	免許・資格	
										年月	職歴 (一部抜粋)			年月	免許・資格名 (一部抜粋)
原田 菜央	専門	必修	はりきゅう実技Ⅰ	実習	第1学年	前期	40	※1	はり実技基礎	平成22年4月～平成24年3月	はなまる整骨院		施術所において、鍼灸師としてはり治療、きゅう治療を行う	平成22年4月	はり師免許
										平成26年4月～平成27年3月	株式会社 Themis		ダンスチームのトレーナーとしてコンディショニング管理、はり治療、きゅう治療を行う。	平成22年4月	きゅう師免許
										平成25年4月～現在	はりきゅうアロマだいたい		出張を中心に鍼灸師としてはり治療、きゅう治療を行う。		
鈴木 陽平	専門	必修	はりきゅう実技Ⅰ	実習	第1学年	前期	40	※1	きゅう実技基礎	平成14年4月～平成21年3月	あい鍼灸整骨院		施術所において、鍼灸師としてはり治療、きゅう治療を行う	平成19年4月	はり師免許
										平成28年5月～平成30年5月	エイジレス鍼灸整骨院		施術所において、鍼灸師としてはり治療、きゅう治療を行う	平成19年4月	きゅう師免許
										平成30年6月～現在	岩瀬こころ鍼灸院	院長(開設者)	施術所において、鍼灸師としてはり治療、きゅう治療を行う		
高木 敏和	専門	必修	はりきゅう実技Ⅰ	実習	第1学年	前期	40	※1	はりきゅう用具の適切な使用と術式、衛生・リスク管理	平成11年4月～現在	韭山はりきゅう院		施術所において、鍼灸師としてはり治療、きゅう治療を行う	昭和56年6月	はり師免許師
										平成12年4月～現在	岸クリニック		リハビリ業務を扱う	昭和56年6月	きゅう師免許
														昭和55年4月	あん摩マッサージ指圧師免許
山崎 康平	専門	必修	東洋医学概論Ⅰ	講義	第1学年	前期	40	2	気血津液精、陰陽、臓腑の生理・病理	平成27年5月～現在	ユリ治療室		施術所において、鍼灸師として東洋医学理論に基づいたはり治療、きゅう治療を行う	平成27年4月	はり師免許師
	専門	必修	東洋医学臨床論Ⅱ	講義	第3学年	前期	40	2	中医学・弁証論治	平成29年4月～現在	おおもり東口はりきゅう治療室		施術所において、鍼灸師として東洋医学理論に基づいたはり治療、きゅう治療を行う	平成27年4月	きゅう師免許
														平成27年4月	あん摩マッサージ指圧師免許
鬼頭 健介	基礎	必修	スポーツ・健康概論Ⅱ	講義	第2学年	前期	40	2	トレーニング指導、運動心理	平成14年4月～平成15年9月	愛知県立安城南高等学校 硬式野球部トレーナー		高校野球部トレーナーとして、コンディショニング管理、リハビリプログラムの作成、リハビリ業務を行う	平成12年3月	中学校・高等学校教諭1種免許状(保健体育)
										平成15年10月～平成30年12月	株式会社 読売巨人軍トレーナー		巨人軍トレーナーとして、コンディショニング管理、リハビリプログラムの作成、リハビリ業務を行う	平成15年6月	はり師免許師
														平成15年6月	きゅう師免許
														平成15年6月	あん摩マッサージ指圧師免許
合計							240	10							

※1 はりきゅう実技Ⅰは上記3授業をもって4単位と換算する。

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	2 年
科目名	スポーツ・健康概論Ⅱ	授業方法	講 義	講師名	鬼頭 健介
授業目標	将来、医療従事者としてスポーツ現場に関わった際のトレーニング方法や、実際の臨床で起こり得る場面で役に立つ知識を身につける。グループワークの中で発表の準備を通じて、より深い知識を身につける。				
実務経験のある教員等による授業科目		平成15年10月～平成30年12月まで巨人軍トレーナーとして、コンディショニング管理、リハビリプログラムの作成、リハビリ業務を行う。実務経験を生かし、スポーツ・健康概論の授業を行う。			
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス/グループワークの説明			
	2	体力学総論			
	3	スポーツ選手の競技力向上と栄養			
	4	運動と心理①基礎理論			
	5	②スポーツ選手の競技力向上と栄養			
	6	③一般人の健康増進への活用			
	7	トレーニング指導者の役割			
	8	スポーツ選手の整形外科的傷害と予防			
	9	運動指導の科学			
	10	グループワーク発表/子どものスポーツ			
	11	グループワーク発表/女性アスリート			
	12	グループワーク発表/プロテイン			
	13	自重トレ・チューブエクササイズ①			
	14	自重トレ・チューブエクササイズ②			
	15	運動指導のための情報収集と活用			
	16	救急処置法			
	17	総復習			
	18	確認試験			
	19	試験解説・ポイント説明・おさらい			
	20	総括			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☑筆記試験 / □実技試験 □その他()			7割
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / ☑発表 ☑出席状況 / ☑授業態度 / その他()			3割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	JATIトレーニング指導者テキスト理論編・実践編			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼灸	担当学年	1 年
科目名	はりきゅう実技Ⅰ	授業方法	実 技	講師名	原田 菜央
授業目標	鍼治療の基本的な知識を学び、刺鍼の技術を習得することを目標とし、実技を行うにあたっての心構え、所作を身に付ける。使用する鍼の名称や種類、取り扱い方法を学び刺鍼における危険性や安全管理を学習する。直刺、斜刺、横刺を正確に刺入することができる。				
実務経験のある教員等による授業科目	平成25年4月よりはりきゅうアロマだいを開設し、鍼灸師としてはり治療、きゅう治療を行う。実務経験を生かし、基礎はり実技の授業を行う。				
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス、実技室の使用方法、消毒法(手洗い、手指消毒)			
	2	挿管法、管鍼法(一連の動作)の確認			
	3	挿管法、刺鍼練習（刺鍼練習台による練習）			
	4	刺鍼練習（刺鍼練習台による練習）			
	5	刺鍼練習（刺鍼練習台による練習）、刺鍼中の手技(17 手技)			
	6	刺鍼の角度（刺鍼練習台による練習）、刺鍼中の手技(17 手技)			
	7	浮き物通し			
	8	中間試験練習			
	9	中間試験（実技）			
	10	刺鍼練習（自身の下腿への刺鍼練習）			
	11	刺鍼練習（自身の下腿への刺鍼練習）			
	12	刺鍼練習（自身の下腿への刺鍼練習）			
	13	刺鍼練習（自身の下腿への刺鍼練習）			
	14	刺鍼練習（自身の下腿への取穴、刺鍼練習）			
	15	刺鍼練習（取穴、下腿への刺鍼練習）			
	16	刺鍼練習（取穴、下腿への刺鍼練習）			
	17	前期試験（筆記試験）			
	18	前期試験（実技試験）			
	19	解説・採点の説明			
	20	前期総括			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☑筆記試験 / ☑実技試験 □その他()			7割
	定期試験 外評価法	☑小テスト / ☑中間テスト / □発表 ☑出席状況 / ☑授業態度 / ☑その他(持ち物)			3割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	教科書(はりきゅう実技 <基礎編>) その他適宜資料配布			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼灸	担当学年	1 年
科目名	はりきゅう実技Ⅰ	授業方法	実 技	講師名	高木 敏和
授業目標	施術で用いる鍼および灸についての基礎を理解する。鍼灸治療の手技の種類や技術を学び、正しくリスク管理ができるようにする。				
実務経験のある教員等による授業科目	平成11年4月より蕪山はりきゅう院を開設し、鍼灸師としてはり治療、きゅう治療を行う。実務経験を生かし、はりきゅう施術の手技の種類や技術について授業を行う。				
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	鍼および灸術の定義,など			
	2	鍼の基礎知識(1)用具の説明, など			
	3	鍼の基礎知識(2)古代九鍼			
	4	刺鍼の方式と術式(1)前揉捏法・後揉捏法, など			
	5	刺鍼の方式と術式(2)押手・刺手・切皮			
	6	刺鍼の方式と術式(3)基本手技(その 1)			
	7	刺鍼の方式と術式(4)基本手技(その 2)			
	8	特殊鍼法(1)小児鍼・皮内鍼・円皮鍼			
	9	特殊鍼法(2)灸頭鍼・低周波鍼通電法、など			
	10	鍼の臨床応用			
	11	リスク管理(1)過誤・副作用			
	12	リスク管理(2)感染症対策			
	13	灸の基礎知識			
	14	灸の種類（有痕灸）			
	15	灸の種類（無痕灸）			
	16	灸の臨床応用			
	17	リスク管理			
	18	後期試験（筆記試験）			
	19	解説・採点のポイントを説明			
	20	まとめ			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。（複数可）			評価割合
	定期試験 評価法	☑筆記試験 / □実技試験 □その他（ ）			9割
	定期試験 外評価法	☑小テスト / □中間テスト / □発表 □出席状況 / □授業態度 / その他（ ）			1割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	東洋療法学校協会 はりきゅう理論、はりきゅう実技など			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼灸	担当学年	1 年
科目名	はりきゅう実技Ⅰ	授業方法	実 技	講師名	鈴木 陽平
授業目標	灸施術を行うにあたり、艾(もぐさ)を捻る、立てる、着火する、適切に緩和することができるように技術を磨いていく。板上施灸、米粒大を3分間で20壮以上できるようになる。				
実務経験のある教員等による授業科目	平成30年6月より岩瀬こころ鍼灸院を開設し、鍼灸師としてはり治療、きゅう治療を行う。実務経験を生かし、基礎きゅう実技の授業を行う。				
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	オリエンテーション、実技道具の説明、灸の基礎知識について			
	2	有痕灸、無痕灸について もぐさのひねり方			
	3	もぐさの種類、もぐさ捻り練習			
	4	灸基礎練習① 着火の練習			
	5	灸基礎練習②			
	6	灸基礎練習③			
	7	灸基礎練習④			
	8	自己施灸（三陰交、復溜）知熱灸			
	9	自己施灸（血海、梁丘）知熱灸			
	10	自己施灸（足三里、陰陵泉）透熱灸			
	11	竹上施灸小テスト			
	12	対人施灸（曲池、合谷）			
	13	対人施灸（偏歴、温溜）			
	14	対人施灸（腰陽関、命門）			
	15	対人施灸（身柱、至陽）			
	16	対人施灸（肺俞・膏肓・膈俞）			
	17	試験前 総まとめ			
	18	前期試験			
	19	竹筒を用いた灸（深谷灸法実践）			
	20	澤田流太極療法実践			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。（複数可）			評価割合
	定期試験 評価法	□筆記試験 / ☒ 実技試験 □その他（ ）			10割
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表 □出席状況 / □授業態度 / その他（ ）			割
基準	80点以上をA、70点以上80点未満をB、60点以上70点未満をCとし、60点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	東洋療法学校協会 はりきゅう実技＜基礎編＞			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼灸	担当学年	1年
科目名	東洋医学概論Ⅰ	授業方法	講義	講師名	山崎 康平
授業目標	東洋医学の思想、世界観と人体との相関関係を理解する。また、気血津液精、陰陽、臓腑などの東洋医学に特有な人体の捉え方を学び、それらの生理と病理を理論立てて学ぶことで、弁証論治を行う際に活用できる形での知識の習得を目指す。				
実務経験のある教員等による授業科目	平成29年4月より鍼灸師としておおもり東口はりきゅう治療室にて東洋医学理論に基づいたはり治療、きゅう治療を行う。実務経験を生かし、東洋医学概論の授業を行う。				
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス			
	2	第1章 東洋医学の特徴(P2～36)			
	3	第2章 生理と病理(P37～180) ①生理物質:気(P42～50)			
	4	②生理物質:血(P50～53)			
	5	③生理物質:津液(54～58)			
	6	④生理物質:精(P38～42)			
	7	⑤生理物質の相互関係(P58～62)			
	8	⑥神(P62～68)			
	9	⑦陰陽、陰陽学説(P68～73、182～187)			
	10	⑧蔵象、五行学説(P74～77、188～200)			
	11	⑨五臓:肝系統(P77～87)			
	12	⑩五臓:心系統(P87～97)			
	13	⑪五臓:脾系統(P97～106)			
	14	⑫五臓:肺系統(P106～115)			
	15	⑬五臓:腎系統、三焦(P115～127)			
	16	⑭五臓の相互関係(P127～142)			
	17	まとめ			
	18	前期試験(筆記試験)			
	19	試験解説・採点のポイントを説明			
	20	総括			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☑筆記試験 / □実技試験 □その他()			8割
	定期試験 外評価法	☑小テスト(1割) / □中間テスト / □発表 ☑出席状況(1割) / ☑授業態度(減点方式)			2割
基準	80点以上をA、70点以上80点未満をB、60点以上70点未満をCとし、60点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	東洋療法学校協会 東洋医学概論			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼 灸	担当学年	3 年
科目名	東洋医学臨床論Ⅱ	授業方法	講 義	講師名	山崎 康平
授業目標	気血津液陰陽、臓腑の生理・病理などの東洋医学的な基礎知識、および四診情報の解釈の理論を応用しながら、患者の症状に対し弁証論治の訓練を行い、臨床で活用可能な知識を習得する。				
実務経験のある教員等による授業科目	平成29年4月より鍼灸師としておおもり東口はりきゅう治療室にて東洋医学理論に基づいたはり治療、きゅう治療を行う。実務経験を生かし、東洋医学臨床論の授業を行う。				
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス			
	2	便秘と下痢			
	3	月経異常			
	4	排尿障害			
	5	インポテンツ			
	6	肩こり・頸肩腕痛・肩関節痛・上肢痛・腰下肢痛・膝痛			
	7	高血圧症			
	8	低血圧症			
	9	食欲不振			
	10	肥満			
	11	発熱			
	12	のぼせと冷え			
	13	不眠			
	14	疲労と倦怠			
	15	発疹			
	16	小児の症状・スポーツ障害			
	17	まとめ			
	18	後期試験（筆記試験）			
	19	試験解説・採点のポイントを説明			
	20	総括			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。（複数可）			評価割合
	定期試験 評価法	☑筆記試験 / □実技試験 □その他（ ）			9割
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表 ☑出席状況(1割) / ☑授業態度(減点方式)			1割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	東洋療法学校協会 東洋医学臨床論			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

客観的な指標の算出方法						
履修科目の成績評価を点数化し、全科目の合計点の平均を算出する (100点満点で点数化)						
学科名	鍼灸学科	学年	1	学生数	29	
成績の分布						
指標の数値	～50点	50	60	70	80	90
		～60点	～70点	～80点	～90点	～100点
人数	0	0	5	5	6	13
下位1/4に該当する人数 7人						
下位1/4に該当する指標の数値 76.3点以下						

令和三年度 実務経験のある教員等による授業科目一覧および当該科目担当教員実務経験一覧 柔道整復学科（昼間部）

氏名	科目 区分	必修 選択 の別	科目名	授業 形式	設定学年	設定 時期	時間 数	単位 数	内 容	経 歴		役 職	業 務 内 容 ・ 専 門 分 野 等	免 許 ・ 資 格	
										年 月	職 歴 (一部抜粋)			年 月	免 許 ・ 資 格 名 (一部抜粋)
小澤 健史	専門 基礎	必修	解剖学Ⅰa	講義	第1学年	前期	40	2	解剖学講義	平成5年4月～平成12 年3月	おざわ接骨院		柔道整復師として骨折、脱臼、打 撲、捻挫といった外傷を扱う	平成5年4月	柔道整復師免許
	専門 基礎	必修	柔道Ⅰ	実習	第1学年	前期	40	2	柔道実習		アイユーデイスー ビス有限会社	代表取締役	高齢者介護施設において機能訓練の実施、デイ サービスの運営を行う。	平成12年4月	介護支援専門員
柴田 浩介	専門 基礎	必修	職業倫理	講義	第1学年	前期	20	1	柔道整復師の職業 倫理講義	平成10年4月～平成 17年3月	(有)サンシーバ		柔道整復師として骨折、脱臼、打 撲、捻挫といった外傷を扱う	平成20年4月	柔道整復師免許
	専門	必修	基礎柔整Ⅰb	講義	第1学年	前期	40	2	脱臼総論講義		社会福祉法人 駿 府葵会	デイスービス管 理者	高齢者介護施設において機能訓練の実施、デイ サービスの運営を行う。	平成27年4月	介護支援専門員
											居宅介護支援事 業所管理者	居宅サービス計画書の作成及び支援の実施、居 宅介護支援事業所の運営を行う。			
馬淵 良美	専門	必修	物理療法取扱い	講義	第3学年	前期	20	1	物理療法取扱講義	平成25～現在	まぶち鍼灸接骨院		柔道整復師として骨折、脱臼、打 撲、捻挫といった外傷を扱う	平成25年4月	柔道整復師免許
鬼頭 健介	基礎	必修	スポーツ・健康概論Ⅰ a	講義	第1学年	前期	40	2	傷害発生時の評価・測定、 テーピング、ストレッチ、エ クササイズ	平成14年4月～平成 15年9月	愛知県立安城南高 等学校 硬式野球 部トレーナー		高校野球部トレーナーとして、コンディション 管理、リハビリプログラムの作成、リハビリ業 務を行う	平成12年3月	指導員1種免許状（保健 体育）
	基礎	必修	スポーツ・健康概論Ⅱ a	講義	第2学年	前期	40	2	傷害発生時の評価・測定、 テーピング、ストレッチ、エ クササイズ	平成15年10月～平成 30年12月	株式会社 読売巨 人軍トレーナー		巨人軍トレーナーとして、コンディション管 理、リハビリプログラムの作成、リハビリ業務 を行う	平成15年6月	はり師免許師
														平成15年6月	きゅう師免許
														平成15年6月	あん摩マッサージ指 圧師免許
小松 敏美	専門	必修	柔道整復術の臨床的判 定	講義	第3学年	前期	40	2	柔道整復術の適応 の可否判断講義	平成6年4月～現在	日漢堂整骨院	院長（開設者）	柔道整復師として骨折、脱臼、打 撲、捻挫といった外傷を扱う	平成6年4月	柔道整復師免許
合計							280	14							

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復学科	担当学年	1 年
科目名	スポーツ・健康概論 I a	授業方法	講 義	講師名	鬼頭 健介
授業目標	コンディショニングの領域に位置付けられているテーピングの理論と実技を機能解剖学の視点を交えながら学び、柔道整復師ならびにトレーニング指導者、機能訓練士としてスポーツ現場、医療現場、介護現場など幅広い現場で活かせる技術を養う。				
実務経験のある教員等による授業科目		平成15年10月～平成30年12月まで巨人軍トレーナーとして、コンディショニング管理、リハビリプログラムを作成、リハビリ業務を行う。実務経験を生かし、スポーツ・健康概論の授業を行う。			
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	授業概要・トレーニング指導者の役割について			
	2	スポーツトレーナーの役割について			
	3	テーピング概要			
	4	上肢のテーピング(手指)			
	5	上肢のテーピング(手関節・肘関節)			
	6	上肢のテーピング(肩関節)			
	7	下肢のテーピング(足部)			
	8	下肢のテーピング(足関節:フィギュアエイト・ヒールロック)①			
	9	〃 (足関節:バスケットウィーブ固定)②			
	10	〃 (足関節:まとめ)③:小テスト			
	11	下肢のテーピング(膝関節:Xサポート)①			
	12	〃 (膝関節:内側側副靱帯損傷)②			
	13	〃 (膝関節:前十字靱帯損傷)③:小テスト			
	14	下肢のテーピング(下腿部・大腿部)			
	15	キネシオテーピング①			
	16	キネシオテーピング②			
	17	テーピング総合実習:小テスト			
	18	総合復習			
	19	実技試験			
	20	解説・総括			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	□筆記試験 / ☒ 実技試験 □その他()			7割
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表 ☒ 出席状況 / ☒ 授業態度 / その他()			3割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	JATIトレーニング指導者(実践編)、日本体育協会公認アスレティックトレーナーテキスト6 巻			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復学科	担当学年	2 年
科目名	スポーツ・健康概論Ⅱa	授業方法	講 義	講師名	鬼頭 健介
授業目標	傷害発生時の評価・測定を理解し、実際の臨床現場で役立つ知識やテーピング・ストレッチ・エクササイズの技術を身につけながら治癒までの過程を学ぶ。				
実務経験のある教員等による授業科目		平成15年10月～平成30年12月まで巨人軍トレーナーとして、コンディショニング管理、リハビリプログラムを作成、リハビリ業務を行う。実務経験を生かし、スポーツ・健康概論の授業を行う。			
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	授業概要			
	2	傷害時の評価方法①・実技			
	3	②・実技			
	4	傷害時の身体測定・関節弛緩性・関節可動域・柔軟性・筋タイトネスの評価・測定①			
	5	〃 ②			
	6	テーピング概要			
	7	下肢のテーピング(足関節:フィギュアエイト)①			
	8	下肢のテーピング(足関節:ヒールロック固定)②			
	9	下肢のテーピング(足関節:バスケットウィーブ固定)③			
	10	下肢のテーピング(膝関節:Xサポートテープ固定)①			
	11	下肢のテーピング(膝関節:復習・スパイラルテープ・サポートテープ)②			
	12	キネシオテーピング①			
	13	キネシオテーピング②			
	14	様々なストレッチ(全身)①			
	15	②			
	16	自重エクササイズ			
	17	テーピング総合実習			
	18	前期試験(実技試験)			
	19	解説・採点のポイントを説明			
	20	前期ポイントの復習/応急処置			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	□筆記試験 / ☒ 実技試験 □その他()			7割
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表 ☒ 出席状況 / ☒ 授業態度 / その他()			3割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	JATIトレーニング指導者(実践編)、日本体育協会公認アスレティックトレーナーテキスト6 巻			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復学科	担当学年	1 年
科目名	解剖学 I a	授業方法	講 義	講師名	小澤 健史
授業目標	柔道整復師として人体解剖学の知識は必要不可欠であり、その知識は臨床医学に即応するものでなくてはならない。本講義では、必要な知識、技術等を教授する。				
実務経験のある教員等による授業科目		平成 5 年 4 月～平成 12 年 3 月 おざわ接骨院にて柔道整復師として骨折、脱臼、打撲、捻挫といった外傷を扱う それらの経験を活かし柔道整復術に関わる骨や筋肉の講義を行う。			
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス 解剖学的用語			
	2	骨格系_骨総論			
	3	骨格系_脊柱・胸郭			
	4	骨格系_上肢骨			
	5	骨格系_上肢の関節			
	6	骨格系_下肢骨			
	7	骨格系_下肢の関節			
	8	骨格系_頭蓋			
	9	骨格系_頭蓋			
	10	筋系_骨格筋総論・頭部の筋			
	11	筋系_頸部・胸部の筋			
	12	筋系_腹部の筋			
	13	筋系_背部の筋			
	14	筋系_上肢の筋			
	15	筋系_上肢の筋			
	16	筋系_下肢の筋			
	17	筋系_下肢の筋			
	18	前期のまとめ			
	19	前期試験(筆記試験)			
	20	解説・採点のポイントを説明			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☑筆記試験 / □実技試験 □その他()			7 割
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表 ☑出席状況 / ☑授業態度 / その他()			3 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	全国柔道整復学校協会 解剖学 改正第 2 版			
	配布資料の有無	有 ・ 無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復学科	担当学年	1 年
科目名	基礎柔整 I b	授業方法	講 義	講師名	柴田 浩介
授業目標	脱臼の整復法や包帯固定の基本を学び、外傷を負ったものに対し施術ができる。				
実務経験のある教員等による授業科目		柔道整復師として骨折、脱臼、打撲、捻挫といった外傷を扱い、高齢者介護施設において機能訓練の実施、デイサービスの運営を行い、居宅介護支援事業所の運営を行った。この経験をもとに脱臼の整復法や基本包帯法の実技を学ばせる。			
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	オリエンテーション 人体に加わる力 損傷時に加わる力 P12-15			
	2	各組織の損傷 脱臼 P59-61			
	3	各組織の損傷 脱臼 P62-66			
	4	脱臼の整復法 P95-96			
	5	固定法 P98-105 包帯固定学 改定 2 版も使用			
	6	固定法 P98-105 包帯固定学 改定 2 版も使用			
	7	固定法 P98-105 包帯固定学 改定 2 版も使用			
	8	包帯の巻き方 包帯の種類について			
	9	包帯巻きとり 実技テスト（10 点）			
	10	固定材料について(硬性材料、軟性材料)			
	11	基本包帯法 上行麦穂帯			
	12	基本包帯法 デゾー包帯			
	13	基本包帯法 ヴェルポー包帯 ジュール包帯			
	14	三角巾の巻き方			
	15	三角巾の巻き方			
	16	基本包帯法 実技テスト 三角巾（20 点）			
	17	前期振り返り 脱臼総論			
	18	前期振り返り 包帯固定学			
	19	前期テスト			
	20	テスト返し 前期まとめ			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☑筆記試験 / ☑実技試験 □その他()			7 割
	定期試験 外評価法	☑小テスト / □中間テスト / □発表 ☑出席状況 / ☑授業態度 / その他()			3 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	南江堂 柔道整復学・理論編 改定 6 版 包帯固定学 改定 2 版			
	配布資料の有無	有・無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復	担当学年	1年
科目名	柔道	授業方法	実 技	講師名	小澤 健史
授業目標	柔道を通して人として、社会人として、医療人として必要な人格形成を養い、社会貢献できる人物像を形成し実践できる。				
実務経験のある教員 等による授業科目	平成 5 年 4 月～平成 12 年 3 月 おざわ接骨院にて柔道整復師として骨折、脱臼、打撲、捻挫といった外傷を扱う それらの経験を活かし柔道整復術に関わる骨や筋肉の講義を行う。				
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	柔道の基本			
	2	柔道の基本			
	3	柔道の基本			
	4	柔道の基本			
	5	柔道の基本			
	6	柔道の基本			
	7	柔道の基本			
	8	柔道の基本			
	9	柔道の基本			
	10	柔道の基本			
	11	投の形			
	12	投の形			
	13	投の形			
	14	投の形			
	15	投の形			
	16	投の形			
	17	投の形			
	18	投の形			
	19	期末試験			
	20	投の形			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他()			7 割
	定期試験 外評価法	☐ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表 ☒ 出席状況 / ☒ 授業態度 / その他()			3 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	全国柔道整復学校協会 解剖学 改正第 2 版			
	配布資料の有無	有 ・ 無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復	担当学年	3 年
科目名	柔道整復術適応の 臨床的判定	授業方法	講 義	講師名	小松 敏美
授業目標	柔道整復師として患者の症状に関する適切な判断ができることを目的とする。問診・視診・触診等による症状及び画像判断から内科的疾患及び合併症との関係性を学ぶ。				
実務経験のある教員 等による授業科目	平成 6 年 4 月～現在 日漢堂整骨院院長(開設者)柔道整復師として骨折、脱臼、打撲、捻挫といった外傷を扱う。現在の経験を活かし骨折、脱臼、軟部組織損傷の固定実技を行う。				
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス 柔道整復師の業務			
	2	医用画像の理解① 放射線(X線) CT MRI P83～			
	3	医用画像の理解② MRI 超音波画像 その他			
	4	施術の適応と非適応 外傷と疾病			
	5	類似症状①			
	6	②			
	7	化膿性炎症			
	8	血流障害を伴う損傷			
	9	末梢神経損傷を伴う損傷①			
	10	②			
	11	脱臼骨折と開放性損傷			
	12	病的骨折と脱臼			
	13	意識障害を伴う損傷			
	14	脊髄損傷症状			
	15	呼吸器運動障害を伴う損傷			
	16	内臓損傷の合併			
	17	前期のまとめ及びプリント練習問題			
	18	前期のまとめ			
	19	前期定期試験			
	20	定期試験解説及び前期のまとめ			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他()			10 割
	定期試験 外評価法	☐ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表 ☐ 出席状況 / ☐ 授業態度 / その他()			割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	柔道整復学・理論第 6 版 柔道整復学・実技第 2 版 包帯学			
	配布資料の有無	有・無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復	担当学年	1 年
科目名	職業倫理	授業方法	講義	講師名	柴田 浩介
授業目標	社会貢献と地域業務を担う柔道整復師としての育成を目的とする。柔道整復師として、社会人としての倫理とマナー、患者様との接し方、コンプライアンス(法令遵守)を基本とする職業倫理を学ぶ。				
実務経験のある教員等による授業科目	柔道整復師として骨折、脱臼、打撲、捻挫といった外傷を扱い、高齢者介護施設において機能訓練の実施、デイサービスの運営を行い、居宅介護支援事業所の運営を行った。この経験をもとに脱臼の整復法や基本包帯法の実技を学ばせる。				
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス 倫理学とは			
	2	職業倫理とは			
	3	医療従事者の職業倫理			
	4	倫理についてグループワーク			
	5	倫理についてグループワーク			
	6	倫理についてグループワーク			
	7	柔道整復師の基本的倫理観			
	8	柔道整復師の基本的倫理観			
	9	柔道整復師の基本的倫理観			
	10	柔道整復師の社会的責任と対応			
	11	小テスト			
	12	柔道整復師の社会的責任と対応についてグループワーク			
	13	柔道整復師の社会的責任と対応についてグループワーク			
	14	柔道整復師の社会的責任と対応についてグループワーク			
	15	医療における情報と責任			
	16	生活の質について			
	17	患者の権利について			
	18	前期のまとめ			
	19	前期定期試験			
	20	解説			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他()			7 割
	定期試験 外評価法	☐ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表 ☒ 出席状況 / ☒ 授業態度 / その他()			3 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	全国柔道整復学校協会 解剖学 改正第 2 版			
	配布資料の有無	有・無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復	担当学年	3 年
科目名	物理療法機器の取扱い	授業方法	講 義	講師名	大竹 良美
授業目標	柔道整復師が取扱う物理療法機器の知識を習得し資格取得時に扱うことができる。				
実務経験のある教員 等による授業科目	平成 25 年 ～現在勤務まぶち鍼灸接骨院 現在も臨床の現場にいる中で物理療法機器を取り扱っている。 この経験を活かし現在の物理療法機器の現状や取扱を講義する。				
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス、E.物理療法 1.分類、2.安全対策 (P113～114)			
	2	3.主な物理療法 a.電気療法 (P114～118)			
	3	低周波電気刺激療法、中周波電気療法			
	4				
	5	b.温熱療法 b-1.伝導熱療法 (P118～121)			
	6	ホットパック療法、パラフィン浴療法、水(局所浴)療法			
	7	b-2.輻射熱療法 (P122)			
	8	b-3.変換熱療法 (P122～P126)			
	9	超短波療法、極超短波療法、超音波療法			
	10				
	11	c.光線療法 (P126～128)			
	12	d.寒冷療法 (P128～131)			
	13	伝導冷却法、対流冷却法、気化冷却法			
	14				
	15	e.牽引療法 (P131～134)			
	16	頸椎介達牽引、腰椎介達牽引			
	17				
	18	f.その他 (P134～135)			
	19	前期試験			
	20	解説・採点のポイント説明			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他()			10 割
	定期試験 外評価法	☐ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表 ☐ 出席状況 / ☐ 授業態度 / その他()			割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	南江堂 柔道整復・理論編 改訂第 6 版			
	配布資料の有無	有・無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

客観的な指標の算出方法						
履修科目の成績評価を点数化し、全科目の合計点の平均を算出する (100点満点で点数化)						
学科名	柔道整復学科 昼	学年	1	学生数	29	
成績の分布						
指標の数値	～50点	50	60	70	80	90
		～60点	～70点	～80点	～90点	～100点
人数	0	0	3	16	8	2
下位1／4に該当する人数 7人						
下位1／4に該当する指標の数値 71点以下						

令和三年度 実務経験のある教員等による授業科目一覧および当該科目担当教員実務経験一覧 柔道整復学科（夜間部）

氏名	科目 区分	必修 選択 の別	科目名	授業 形式	設定学年	設定 時期	時間 数	単位 数	内 容	経 歴		役 職	業 務 内 容 ・ 専 門 分 野 等	免 許 ・ 資 格	
										年 月	職 歴 (一部抜粋)			年 月	免 許 ・ 資 格 名 (一部抜粋)
小澤 健史	専門 基礎	必修	解剖学Ⅰa	講義	第1学年	前期	40	2	解剖学講義	平成5年4月～平成12 年3月	おざわ接骨院		柔道整復師として骨折、脱臼、打 撲、捻挫といった外傷を扱う	平成5年4月	柔道整復師免許
	専門 基礎	必修	柔道Ⅰ	実習	第1学年	前期	40	2	柔道実習		アイユーデイサー ビス有限会社	代表取締役	高齢者介護施設において機能訓練の実施、デイ サービスの運営を行う。	平成12年4月	介護支援専門員
柴田 浩介	専門 基礎	必修	職業倫理	講義	第1学年	前期	20	1	柔道整復師の職業 倫理講義	平成10年4月～平成 17年3月	(有)サンシーバ		柔道整復師として骨折、脱臼、打 撲、捻挫といった外傷を扱う	平成20年4月	柔道整復師免許
	専門	必修	基礎柔整Ⅰb	講義	第1学年	前期	40	2	脱臼総論講義		社会福祉法人 駿 府葵会	デイスービス管 理者	高齢者介護施設において機能訓練の実施、デイ サービスの運営を行う。	平成27年4月	介護支援専門員
												居宅介護支援事 業所管理者	居宅サービス計画書の作成及び支援の実施、居 宅介護支援事業所の運営を行う。		
馬淵 良美	専門	必修	物理療法取扱い	講義	第3学年	前期	20	1	物理療法取扱講義	平成25～現在	まぶち鍼灸接骨院		柔道整復師として骨折、脱臼、打 撲、捻挫といった外傷を扱う	平成25年4月	柔道整復師免許
鬼頭 健介	基礎	必修	スポーツ・健康概論Ⅰ a	講義	第1学年	前期	40	2	傷害発生時の評価・測定、 テーピング、ストレッチ、エ クササイズ	平成14年4月～平成 15年9月	夏知東立安城南高 等学校 硬式野球 部トレーナー		高校野球部トレーナーとして、コンディション 管理、リハビリプログラムの作成、リハビリ業 務を行う	平成12年3月	指導員1種免許状（保健 体育）
	基礎	必修	スポーツ・健康概論Ⅱ a	講義	第2学年	前期	40	2	傷害発生時の評価・測定、 テーピング、ストレッチ、エ クササイズ	平成15年10月～平成 30年12月	株式会社 読売巨 人軍トレーナー		巨人軍トレーナーとして、コンディション管 理、リハビリプログラムの作成、リハビリ業務 を行う	平成15年6月	はり師免許師
														平成15年6月	きゅう師免許
														平成15年6月	あん摩マッサージ指 圧師免許
小松 敏美	専門	必修	柔道整復術の臨床的判 定	講義	第3学年	前期	40	2	柔道整復術の適応 の可否判断講義	平成6年4月～現在	日漢堂整骨院	院長（開設者）	柔道整復師として骨折、脱臼、打 撲、捻挫といった外傷を扱う	平成6年4月	柔道整復師免許
合計							280	14							

	医療専門課程	担当学科	柔道整復学科	担当学年	1 年
科目名	スポーツ・健康概論 I a	授業方法	講 義	講師名	鬼頭 健介
授業目標	コンディショニングの領域に位置付けられているテーピングの理論と実技を機能解剖学の視点を交えながら学び、柔道整復師ならびにトレーニング指導者、機能訓練士としてスポーツ現場、医療現場、介護現場など幅広い現場で活かせる技術を養う。				
実務経験のある教員等による授業科目		平成15年10月～平成30年12月まで巨人軍トレーナーとして、コンディショニング管理、リハビリプログラムの作成、リハビリ業務を行う。実務経験を生かし、スポーツ・健康概論の授業を行う。			
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	授業概要・トレーニング指導者の役割について			
	2	スポーツトレーナーの役割について			
	3	テーピング概要			
	4	上肢のテーピング(手指)			
	5	上肢のテーピング(手関節・肘関節)			
	6	上肢のテーピング(肩関節)			
	7	下肢のテーピング(足部)			
	8	下肢のテーピング(足関節:フィギュアエイト・ヒールロック)①			
	9	〃 (足関節:バスケットウィーブ固定)②			
	10	〃 (足関節:まとめ)③:小テスト			
	11	下肢のテーピング(膝関節:Xサポート)①			
	12	〃 (膝関節:内側側副靱帯損傷)②			
	13	〃 (膝関節:前十字靱帯損傷)③:小テスト			
	14	下肢のテーピング(下腿部・大腿部)			
	15	キネシオテーピング①			
	16	キネシオテーピング②			
	17	テーピング総合実習:小テスト			
	18	総合復習			
	19	実技試験			
	20	解説・総括			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	□筆記試験 / ☒ 実技試験 □その他()			7割
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表 ☒ 出席状況 / ☒ 授業態度 / その他()			3割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	JATIトレーニング指導者(実践編)、日本体育協会公認アスレティックトレーナーテキスト 6 巻			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復学科	担当学年	2 年
科目名	スポーツ・健康概論Ⅱa	授業方法	講 義	講師名	鬼頭 健介
授業目標	傷害発生時の評価・測定を理解し、実際の臨床現場で役立つ知識やテーピング・ストレッチ・エクササイズの技術を身につけながら治癒までの過程を学ぶ。				
実務経験のある教員等による授業科目		平成15年10月～平成30年12月まで巨人軍トレーナーとして、コンディショニング管理、リハビリプログラム作成、リハビリ業務を行う。実務経験を生かし、スポーツ・健康概論の授業を行う。			
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	授業概要			
	2	傷害時の評価方法①・実技			
	3	②・実技			
	4	傷害時の身体測定・関節弛緩性・関節可動域・柔軟性・筋タイトネスの評価・測定①			
	5	〃 ②			
	6	テーピング概要			
	7	下肢のテーピング(足関節:フィギュアエイト)①			
	8	下肢のテーピング(足関節:ヒールロック固定)②			
	9	下肢のテーピング(足関節:バスケットウィーブ固定)③			
	10	下肢のテーピング(膝関節:Xサポートテープ固定)①			
	11	下肢のテーピング(膝関節:復習・スパイラルテープ・サポートテープ)②			
	12	キネシオテーピング①			
	13	キネシオテーピング②			
	14	様々なストレッチ(全身)①			
	15	②			
	16	自重エクササイズ			
	17	テーピング総合実習			
	18	前期試験(実技試験)			
	19	解説・採点のポイントを説明			
	20	前期ポイントの復習/応急処置			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	□筆記試験 / ☒ 実技試験 □その他()			7割
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表 ☒ 出席状況 / ☒ 授業態度 / その他()			3割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	JATIトレーニング指導者(実践編)、日本体育協会公認アスレティックトレーナーテキスト6 巻			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復学科	担当学年	1 年
科目名	解剖学 I a	授業方法	講 義	講師名	小澤 健史
授業目標	柔道整復師として人体解剖学の知識は必要不可欠であり、その知識は臨床医学に即応するものでなくてはならない。本講義では、必要な知識、技術等を教授する。				
実務経験のある教員等による授業科目	平成 5 年 4 月～平成 12 年 3 月 おざわ接骨院にて柔道整復師として骨折、脱臼、打撲、捻挫といった外傷を扱う それらの経験を活かし柔道整復術に関わる骨や筋肉の講義を行う。				
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス 解剖学的用語			
	2	骨格系_骨総論			
	3	骨格系_脊柱・胸郭			
	4	骨格系_上肢骨			
	5	骨格系_上肢の関節			
	6	骨格系_下肢骨			
	7	骨格系_下肢の関節			
	8	骨格系_頭蓋			
	9	骨格系_頭蓋			
	10	筋系_骨格筋総論・頭部の筋			
	11	筋系_頸部・胸部の筋			
	12	筋系_腹部の筋			
	13	筋系_背部の筋			
	14	筋系_上肢の筋			
	15	筋系_上肢の筋			
	16	筋系_下肢の筋			
	17	筋系_下肢の筋			
	18	前期のまとめ			
	19	前期試験(筆記試験)			
	20	解説・採点のポイントを説明			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☑筆記試験 / □実技試験 □その他()			7 割
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表 ☑出席状況 / ☑授業態度 / その他()			3 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	全国柔道整復学校協会 解剖学 改正第 2 版			
	配布資料の有無	有 ・ 無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復学科	担当学年	1 年
科目名	基礎柔整 I b	授業方法	講 義	講師名	柴田 浩介
授業目標	脱臼の整復法や包帯固定の基本を学び、外傷を負ったものに対し施術ができる。				
実務経験のある教員等による授業科目		柔道整復師として骨折、脱臼、打撲、捻挫といった外傷を扱い、高齢者介護施設において機能訓練の実施、デイサービスの運営を行い、居宅介護支援事業所の運営を行った。この経験をもとに脱臼の整復法や基本包帯法の実技を学ばせる。			
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	オリエンテーション 人体に加わる力 損傷時に加わる力 P12-15			
	2	各組織の損傷 脱臼 P59-61			
	3	各組織の損傷 脱臼 P62-66			
	4	脱臼の整復法 P95-96			
	5	固定法 P98-105 包帯固定学 改定 2 版も使用			
	6	固定法 P98-105 包帯固定学 改定 2 版も使用			
	7	固定法 P98-105 包帯固定学 改定 2 版も使用			
	8	包帯の巻き方 包帯の種類について			
	9	包帯巻きとり 実技テスト (10 点)			
	10	固定材料について(硬性材料、軟性材料)			
	11	基本包帯法 上行麦穂帯			
	12	基本包帯法 デゾー包帯			
	13	基本包帯法 ヴェルポー包帯 ジュール包帯			
	14	三角巾の巻き方			
	15	三角巾の巻き方			
	16	基本包帯法 実技テスト 三角巾 (20 点)			
	17	前期振り返り 脱臼総論			
	18	前期振り返り 包帯固定学			
	19	前期テスト			
	20	テスト返し 前期まとめ			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☑筆記試験 / ☑実技試験 □その他()			7 割
	定期試験 外評価法	☑小テスト / □中間テスト / □発表 ☑出席状況 / ☑授業態度 / その他()			3 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	南江堂 柔道整復学・理論編 改定 6 版 包帯固定学 改定 2 版			
	配布資料の有無	有・無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復	担当学年	1年
科目名	柔道	授業方法	実 技	講師名	小澤 健史
授業目標	柔道を通して人として、社会人として、医療人として必要な人格形成を養い、社会貢献できる人物像を形成し実践できる。				
実務経験のある教員 等による授業科目	平成 5 年 4 月～平成 12 年 3 月 おざわ接骨院にて柔道整復師として骨折、脱臼、打撲、捻挫といった外傷を扱う それらの経験を活かし柔道整復術に関わる骨や筋肉の講義を行う。				
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	柔道の基本			
	2	柔道の基本			
	3	柔道の基本			
	4	柔道の基本			
	5	柔道の基本			
	6	柔道の基本			
	7	柔道の基本			
	8	柔道の基本			
	9	柔道の基本			
	10	柔道の基本			
	11	投の形			
	12	投の形			
	13	投の形			
	14	投の形			
	15	投の形			
	16	投の形			
	17	投の形			
	18	投の形			
	19	期末試験			
	20	投の形			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他()			7 割
	定期試験 外評価法	☐ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表 ☒ 出席状況 / ☒ 授業態度 / その他()			3 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	全国柔道整復学校協会 解剖学 改正第 2 版			
	配布資料の有無	有 ・ 無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復	担当学年	3 年
科目名	柔道整復術適応の 臨床的判定	授業方法	講 義	講師名	小松 敏美
授業目標	柔道整復師として患者の症状に関する適切な判断ができることを目的とする。問診・視診・触診等による症状及び画像判断から内科的疾患及び合併症との関係性を学ぶ。				
実務経験のある教員 等による授業科目	平成 6 年 4 月～現在 日漢堂整骨院院長(開設者)柔道整復師として骨折、脱臼、打撲、捻挫といった外傷を扱う。現在の経験を活かし骨折、脱臼、軟部組織損傷の固定実技を行う。				
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス 柔道整復師の業務			
	2	医用画像の理解① 放射線(X線) CT MRI P83～			
	3	医用画像の理解② MRI 超音波画像 その他			
	4	施術の適応と非適応 外傷と疾病			
	5	類似症状①			
	6	②			
	7	化膿性炎症			
	8	血流障害を伴う損傷			
	9	末梢神経損傷を伴う損傷①			
	10	②			
	11	脱臼骨折と開放性損傷			
	12	病的骨折と脱臼			
	13	意識障害を伴う損傷			
	14	脊髄損傷症状			
	15	呼吸器運動障害を伴う損傷			
	16	内臓損傷の合併			
	17	前期のまとめ及びプリント練習問題			
	18	前期のまとめ			
	19	前期定期試験			
	20	定期試験解説及び前期のまとめ			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他()			10 割
	定期試験 外評価法	☐ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表 ☐ 出席状況 / ☐ 授業態度 / その他()			割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	柔道整復学・理論第 6 版 柔道整復学・実技第 2 版 包帯学			
	配布資料の有無	有・無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復	担当学年	1 年
科目名	職業倫理	授業方法	講義	講師名	柴田 浩介
授業目標	社会貢献と地域業務を担う柔道整復師としての育成を目的とする。柔道整復師として、社会人としての倫理とマナー、患者様との接し方、コンプライアンス(法令遵守)を基本とする職業倫理を学ぶ。				
実務経験のある教員等による授業科目	柔道整復師として骨折、脱臼、打撲、捻挫といった外傷を扱い、高齢者介護施設において機能訓練の実施、デイサービスの運営を行い、居宅介護支援事業所の運営を行った。この経験をもとに脱臼の整復法や基本包帯法の実技を学ばせる。				
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス 倫理学とは			
	2	職業倫理とは			
	3	医療従事者の職業倫理			
	4	倫理についてグループワーク			
	5	倫理についてグループワーク			
	6	倫理についてグループワーク			
	7	柔道整復師の基本的倫理観			
	8	柔道整復師の基本的倫理観			
	9	柔道整復師の基本的倫理観			
	10	柔道整復師の社会的責任と対応			
	11	小テスト			
	12	柔道整復師の社会的責任と対応についてグループワーク			
	13	柔道整復師の社会的責任と対応についてグループワーク			
	14	柔道整復師の社会的責任と対応についてグループワーク			
	15	医療における情報と責任			
	16	生活の質について			
	17	患者の権利について			
	18	前期のまとめ			
	19	前期定期試験			
	20	解説			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他()			7 割
	定期試験 外評価法	☐ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表 ☒ 出席状況 / ☒ 授業態度 / その他()			3 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	全国柔道整復学校協会 解剖学 改正第 2 版			
	配布資料の有無	有・無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復	担当学年	3 年
科目名	物理療法機器の取扱い	授業方法	講 義	講師名	大竹 良美
授業目標	柔道整復師が取扱う物理療法機器の知識を習得し資格取得時に扱うことができる。				
実務経験のある教員 等による授業科目	平成 25 年 ～現在勤務まぶち鍼灸接骨院 現在も臨床の現場にいる中で物理療法機器を取り扱っている。 この経験を活かし現在の物理療法機器の現状や取扱を講義する。				
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス、E.物理療法 1.分類、2.安全対策 (P113～114)			
	2	3.主な物理療法 a.電気療法 (P114～118)			
	3	低周波電気刺激療法、中周波電気療法			
	4				
	5	b.温熱療法 b-1.伝導熱療法 (P118～121)			
	6	ホットパック療法、パラフィン浴療法、水(局所浴)療法			
	7	b-2.輻射熱療法 (P122)			
	8	b-3.変換熱療法 (P122～P126)			
	9	超短波療法、極超短波療法、超音波療法			
	10				
	11	c.光線療法 (P126～128)			
	12	d.寒冷療法 (P128～131)			
	13	伝導冷却法、対流冷却法、気化冷却法			
	14				
	15	e.牽引療法 (P131～134)			
	16	頸椎介達牽引、腰椎介達牽引			
	17				
	18	f.その他 (P134～135)			
	19	前期試験			
	20	解説・採点のポイント説明			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他()			10 割
	定期試験 外評価法	☐ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表 ☐ 出席状況 / ☐ 授業態度 / その他()			割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	南江堂 柔道整復・理論編 改訂第 6 版			
	配布資料の有無	有・無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

客観的な指標の算出方法						
履修科目の成績評価を点数化し、全科目の合計点の平均を算出する (100点満点で点数化)						
学科名	柔道整復学科 夜	学年	1	学生数	12	
成績の分布						
指標の数値	～50点	50	60	70	80	90
		～60点	～70点	～80点	～90点	～100点
人数	0	0	1	6	5	0
下位1／4に該当する人数 3人						
下位1／4に該当する指標の数値 73.2点以下						